

草苑保育専門学校 学校関係者評価委員会 報告書

日 時：2021年3月8日(月)15:00～16:30

場 所：草苑保育専門学校 大会議室

出席者：保護者からの委員

業界関係者からの委員

地元法人・業界関係者からの委員

地域住民からの委員

栢原英郎 自己評価作成責任者／草苑学園理事／草苑保育専門学校学校長

太田満喜 草苑学園理事・草苑学園学園長

柳内えり 草苑学園理事・総合企画室長／草苑保育専門学校 実習・就職センター長

欠席者：学校運営有識者からの委員

議 事

【学校からの報告と資料説明】

1. 2020年度 自己評価報告書について（全体の取り組み）

1-1 対象期間：2019年4月1日～2020年3月31日

※自己評価報告書の対象期間を、前年度の下半期(10月1日から3月31日まで)と当該年度の上半期(4月1日から9月30日まで)としていたが、前年度いっぱいに変更している。

1-2 教育の理念を実現するため、以下の取り組みを行った。

- ・キリスト教学校教育同盟の活用
- ・職業実践専門課程認定校としての活動
- ・卒業生との連携の強化

1-3 学校の管理・運営の体制については、2018年度に「総務・財務部」「教務・学務部」「入試・広報部」という部制に改め2019年度もこの体制を続けた。また、特定の課題の下にある学生に対応するために、2020年度から「学生部」を新設する方向で検討を進めた。

2. 評価基準に沿った自己評価の説明

2-1 本校の教育の理念

2-1-1 2019年度の年間目標

キリスト教の精神に基づいた人間性の教育

- ・スクールモットー「信仰・希望・愛/祈り」
- ・2019年度 主題聖句「愛は、すべてを完成させるきずなです。」
- ・毎日の礼拝出席奨励、キリスト教関連講義、行事の内容の充実

2-1-2 2019年度の具体的な成果

- ・3つのポリシーの確立、教職課程再課程認定、教育課程再構築、講師研究実績等確認

2-2 学校運営

2018年度には「アドミッションポリシー」を定め、さらに「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の2つのポリシーの作成を進めた。2019年度には、3つのポリシーを固め、そ

れに基づくカリキュラム編成、成績評価方式の確定を行った。

2-3 教育活動

2-3-1 質の高い講義内容

- ・定例教職員協議会での学生アンケート集計報告及び注意喚起
- ・校長個別面談（アンケート結果に問題のあった場合など）
- ・「研究紀要」の継続的な発刊

2-3-2 教員の指導力向上

- ・学会や研修への積極的参加

2-3-3 「保育総合教養」

- ・安田祥子特任講師による童謡歌唱指導、中野佐世子特任講師による手話指導
- ・池袋防災館体験、目白警察による安全講座
- ・就職に関わる講座、各行事委員会活動

2-4 学修成果

2-4-1 学生相談は各担任教員だけではなく、事由に関連した教職員がそれぞれ応じ、その情報を職員会議で共有することで、より良い学修支援に繋げている。

2-4-2 留年決定者に対し、担任を中心に授業担当者がきめ細やかなケアをし卒業につながるようにしていく。

2-5 学生支援

就職指導はゼミ制を取り、担当教員と少人数で話し合うことで就職後の社会人としての自己イメージを明確にし、それぞれが就職活動に臨むようにする。

2-5-1 8～15名規模で行っているゼミ体制(10ゼミ)をはじめ、きめ細やかな就職支援を行っている。

2-5-2 保育専門学校で唯一就職フェアを単独で開催し、学生の就職の意識付けと支援を行った。また集団模擬面接も実施している。

2-5-3 「キャリアサポート室」を設け、就職活動に活用するため、実習先及び教員関係から送られてくる求人票を掲示している。

2-5-4 キャリアサポート室の求人票のファイリングは地域別、種別に分類しわかりやすくしている。

2-6 教育環境

山手線の駅の近くでありながら、閑静な住宅地で、手入れの良い花壇と豊かな植栽は、専門学校としては異色である。また草苑幼稚園が隣接しており、いつでも保育、決して良くはないが、建物の維持と安全性の確保を優先して計画的に整備を進めることとしている。

2-7 学生の募集と受け入れ

2-7-1 学生募集活動

2018年6月にホームページのリニューアルを行い、パソコンとスマートフォンの同期が可能となり、最新情報伝達の促進化が進み、自校ホームページより来校する学生が増えた。

学校の特徴を「教育・環境・支援」の3つの柱を掲げ、各柱を5つの視点から顕示し、他校と

の比較化を図っている。

2-7-2 入学選考

入学選考においては、アドミッションポリシーを見直し、本校教育目的達成の学生像を明示し、その観点から学校の教員が公平かつ適正に行っている。

2-7-3 学納金

学納金については、毎年見直しを行っており、学費が適切かどうか判断している。

2-8 財務

2-8-1 事業活動収支

過去5年間の事業活動収支差額比率は、2017年度の▲2.9%を例外として、ほかの4年は黒字である。

2-8-2 資金収支

過去5年間の次年度繰越支払資金は連続して低下しており、資金収支には大きな課題がある。その要因は借入金返済支出が大きいことであり、事業活動収支差額をもっと増やさなければならぬ。

2-8-3 貸借対照表

総負債比率が2018年度末で82.6%ときわめて高い(2017年度に一部借地であった校地を買い上げ、すべて学校所有としたため)。

2-8-4 予算管理

部署別の予算管理や月別の予実管理を導入しつつある。

2-9 法令等の遵守

関係法令及び内部規程を遵守して、健全かつ適正な業務執行に徹し、社会からの信頼確保に努めている。

- ・スクールモットーを制定して、学園全体が同じ意識を持つよう努めている。
- ・大学法人に準じる積極的な情報公開を行っている。
- ・法人運営・学校運営の基本的事項は幹部会でよく議論して、法令違反のない正当なかたちでの問題解決に努めている。
- ・学園諸規程を整理して、誰もが閲覧できるようにし、計画的に新規制定・改正を行っている。
- ・寄附行為の見直しを行い、2020年4月の改正私立学校法の施行開始に間に合わせるべく作業を進めた。

3. 討議

委員 A: 3つのポリシーについて、今改めて定めた理由と詳細を確認したい。

学校：専修学校では義務化されていないものだが、2020年度からの高等教育無償化の制度の中で、支援の対象となる学生の決定に際して学業成績(下位4分の1に入っていないかどうか)が問われることもあり、成績評価方法を含めて、公平かつ十分な説明責任を果たしうるものを目指し策定した。従来のアドミッションポリシーを中心に、数回の成績評価検討委員会を経て、以下の形としている。

(1) アドミッションポリシー

本校の教育理念を理解し、学びを通して専門的な知識と技術を身につけた人間性豊かな保育者

となるために、次のような意欲と情熱を持った人を求める。

- ・高等学校までの基礎学力のもと、保育のプロになるために専門知識を自ら学び、社会に貢献したいと考えている人。
- ・子どもや支援を必要とする人々、それらを取り巻く人々・仲間と適切にコミュニケーションをとり、思いやりをもって行動できる人。
- ・協調性をもって他者と関わり、周囲と共に学ぼうとする人。

(2) ディプロマポリシー <認定・保育専門士授与の方針>

草苑保育専門学校での教育は、「建学の精神」に基づき、家庭や地域社会、その他の機関や専門家、行政と連携や協力をして、社会全体の未来についても考え、その上で保育の対象であるかけがえのない子どもたち、人々1人ひとりが、より良く成長し生きていくことを支えるための行動ができるよう、専門性・社会性・人間性を身につけることを目的としている。そのため本校の定める課程を修了し以下の資質・能力を一定の水準で獲得した者について卒業を認定し、保育専門士の称号を授与する。

(専門性)

保育者としての倫理観を持ち、対象への共感的理解に努め、具体的な援助や支援の内容を計画し、知識と技術と経験をもって適切に実践できる。

(社会性)

社会を構成する一員であるという自覚のもと、その場で起こる問題、社会的問題に関心を持ち、それらを解消するために様々な社会資源と連携し他者への思いやりをもって、いきいきとかかわり主体的に考え行動できる。

(人間性)

精神的に自立し、継続的に向上心をもって自己発展に努め、社会全体や他者のために何が最善かを考え、判断し行動し、信頼関係を構築することができる。

(3) カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーに掲げる教育目標達成のための講義、演習、実習等を適切に組み合わせた科目及び教育課程を編成する。

2年間での幼稚園教諭2種免許、保育士資格の取得のための必要な科目を体系的かつ系統的に配置し、学習目標を明確にするため、各科目で身につける能力を「カリキュラムマップ」、学習内容の体系、科目間の履修系統を「カリキュラムツリー」によって示す。なお学習成果については、シラバスに記載された方法により評価する。

(閉会)

次回予定：2021年10月頃